

# 国際競争力の向上へ

## 港湾運営状況や課題探る

H27.8.19公明7面

港湾の運営・管理などについて担当者(手前2人)から話を聞く府議会公明党の各議員



大阪府議会公明党(林啓二幹事長)はこのほど、同府の堺、高石、泉津の各市にまたがる府営の堺泉北港と大阪港(大阪市管轄)を視察し、関西の物流などを担う府内の港湾の運営状況や課題について担当者から話を聞いた。

堺泉北港で案内に当たった戸田功・府港湾局経営振興課長から、大阪湾全体で取り扱う貨物量のうち、大阪港、神戸港が共に34%、堺泉北港が29%を占めており、堺泉北港では昨年、中古車の輸取扱量で西日本最大(国内3位)になったことや、「港湾運営会社制

度」の導入による民間活用などについて説明を受けた。

その後、一行は神戸港と合わせて「阪神港」として国の「国際コンテナ戦略港湾」に選定されている大阪港へ。「アジア諸国の港湾に比べ、取り扱うコンテナ貨物量が相対的に伸び悩んでいる」(鈴木隆・大阪市港湾局戦略港湾担当課長)実情などを踏まえ、国際競争力の向上に向けた課題を確認。このほか、港運事業者7社が共同設立した大阪市此花区の夢洲地区の「夢洲コンテナターミナル株式会社」も見学した。

視察後、林幹事長は「国際競争力の向上へ今後も全力を尽くしたい。港湾は物流のほか、防災や観光の視

点からも重要な役割を担う場所。運営面で府・市の連携も必要になる」と語った。